The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

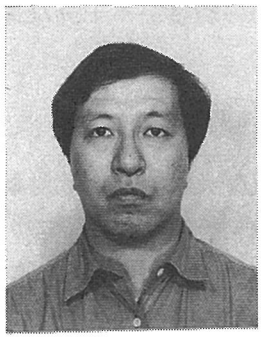
Title	プロ相だより　大阪大学大型計算機センターニュース　第96号（Vol.25　No.1）
Author(s)	
Citation	大阪大学大型計算機センターニュース. 1995, 96, p. 66-80
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/66102
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

プログラム相談員自己紹介



相談窓口：吹田
担当曜日：月曜日（10:00～12:00）

高木 達也（たかぎ たつや）
大阪大学
遺伝情報実験施設・講師

（自己紹介）

大阪大学大型計算機センターの利用者の皆様、初めまして。私は、月曜午前のプログラム相談を担当させて頂いております。今回は文章だけでなく、写真を提出して下さいとのことでしたので、急いで準備したのですが、どうもうまく写っていません。実物はもう少し格好いいとお考え願います？（実はもっと悪かったりして・・・）

この十年ほどの間に、計算機事情も随分変わってきました。私がプログラム相談員を始めて担当させて頂いた頃（1982年？）には、とても考えられなかったような計算を、誰もが行える時代になりました。共同利用の大型計算機センターも、いろんな意味で転換期を迎えているように思います。プログラム相談員の仕事も、プログラムを作成するお手伝いから、ソフトウェアの使い方の修得をお手伝いするといった方向へシフトしてきたようです。

申し遅れましたが、私の本来の専攻分野は Chemometrics、Bioinformatics です。特に Chemometrics という分野はなぜか日本ではかなりマイナーな分野で、公的研究機関で Chemometrics を専攻しておられる研究者の方は「数えるほど」という表現がそうオーバーでないほどしかおられません。このため、プログラム相談をきっかけとして、より多くの方に Chemometrics の世界を覗いて頂けましたら、この上ない喜びと感じております。

また、MOPAC の移植などをさせて頂いています関係で、たまに、私の名前を本誌上で見かけてなおかつプロ相の名簿にも発見された方が、私の専攻分野を Computational Chemistry だと思って相談に見えることがありますが、Computational Chemistry に関しても、そう難しくないご質問でしたら、多少のお役に立てるかと思います。まあ、化学、生物学分野の相談員はほとんどいないと思いますので、化学、生物学、薬学関係で大阪大学大型計算機センターを利用しなければならなくなったけれどもいくつかよくわからない点がある…といった場合には、とりあえず、お気軽にご相談下さい。私でわからないことでも、さらなる相談先をお知らせできるかもしれません。もちろん言うまでもなく、他分野を専攻しておられる方も何でもお気軽にご相談下さい。私で間に合わないことでも、参考図書や専門の方を紹介させて頂くなど、できる限りのことはさせて頂きたいと存じます。言語では FORTRAN、C、OS では ACOS、UNIX に対応できると思います（それぞれ、前に書いた方が得意です）。

e-mail:satan@gen-info.osaka-u.ac.jp

相談窓口：吹田
担当曜日：月曜日（13:00～15:00）

武知英夫（たけち ひでお）
阿南工業高等専門学校
機械工業科・助教授

（自己紹介）

最近のプログラム相談の傾向は、以前と違ってコンパイラ特にFORTRAN に直接関するものが非常に少なくなって（勿論FORTRAN に関するものもあるのですが、UNIX/FORTRANに限られています）、SPSSに関するものを除けばプログラム相談員の受ける立場で見れば、とんでもない範囲の相談があることになります。例えば端末として使用しているPCの全くローカルにしか使用しないTeX のコマンドに付いてであったり、端末に接続されているモデムとエミュレータの環境設定パラメターの話であったりします。最近プロ相のなりてが激滅している最大の理由が、以上のようなプロ相環境問題に深く関わりがあることは間違いないと思います。但し、センターには多数のバックアップが控えてくれておりますがら、要するに質問を巧くリダイレクトすれば相当な支援が得られます。担当時間中はプログラム相談員一人で全システムの全責任をセンターを代表して担うということにはなりません。センターのシステム管理掛は、毎日電子メールで相当な質問に対して対応をしてくれていますが、e-mailを操作できる環境にあるユーザーとなると、やはりUNIXユーザーに限られてくるようです。最近いろいろな問題が未解決のまま放置されている状態であるために、いったい何が本当に問題なのかが分かっていないように思います。一つは学情網で二つめは大型計算機センターで三つめがインターネットで目玉が三つあります。勿論学術情報センターは業務です。大計センターは資源の提供を業務とします。前二つの業務の中で利用者のアクセス手段としてTCP/IPプロトコルのノードとインターネット用のゲートウェイを用意しておりますが、これが主業務ではありません。学情センターがインターネットの国内業務を代行すると言う話も聞いたことがありません。プロ相の相談内容から始まって、最近の議論の内容についていえることはセンターが本来の業務を忘れているようにも思われます。最近までセンターニュースの投稿記事は業績に対する自己プロパガンダと受け取っていたのですが、資料室にあるバックナンバーをよく読み返してみると驚くほどの素晴らしい情報処理が何年も　前にセンター内で行われていたことに衝撃を受けたことがあります。　投稿して頂いた方々に感謝するのは勿論ですが、処理の詳細を書き残してくれたことが同じ計算機を利用している者にとって大変参考になります。また、何と大した利用をここでやったのかがセンターの本当の資産になるのではとおもいます。

担当窓口：吹田
担当曜日：月曜日（15:00～17:00）

田中拓男（たなか たくお）
大阪大学
大学院工学研究科・Ｄ３

（自己紹介）

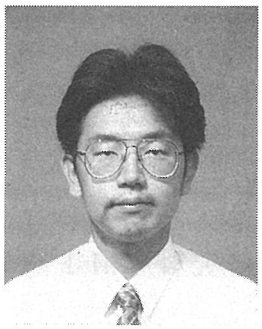
月曜日の午後３時からプログラム相談をやることになりました田中です。プログラム相談員も今年で３年目になるのですが、まだまだ相談に来られると、あわてながらマニュアルを探しているという状況です。

現在私は、工学部応用物理学科のＤ３の学生で、専門は、光計測、応用光学です。具体的には、コンパクトディスクを多層化したような、多層記録型の３次元光メモリについての研究を行っています。この３次元メモリを実現するには、記録媒体の内部に直接ピットを記録したり、再生したりしなければなりません。そこで、この光学系やメモリ媒質内での光波の伝播特性の解析に大型計算機センターを利用させていただいております。

光波の解析といいましても、私がやっていますのは、電磁場を直接数値計算するといったようなものではないので、ACOSやSX-3等の大型計算機は使用せず、もっぱらワークステーションを使っています。ですから、大型計算機センターの相談員をやっていながら、大型計算機に関する経験が少なく、質問に来られても答えられずにご迷惑をおかけすることも幾度となくありました。しかし、ＦＯＲＴＲＡＮやＣのプログラミングに関することや、ワークステーション（電子メールや、その他UNIXマシンの使い方）に関しては、若干の経験がありますので、少しは、お役に立てると思います。

また、実験結果等をＯＨＰに焼いたりするのに、大型計算機センターにあるフルカラープリンターPICTROGRAPHY3000をよく利用するのですが、SiliconGraphicsの画面以外をプリントしていらっしゃる方をあまり見かけたことがありません。９８でとったデータや、Macの画面もあれで出力できるので、もしそのような事で、お困りの方がおられましたら、お力になれると思います。

あと、SiliconGraphicsのONYXや、これの上で動作するExploereについても勉強して行こうと思ってますので、興味のある方は、気軽に相談室にいらしてください。



担当窓口：吹田
担当曜日：火曜日（10:00～12:00）

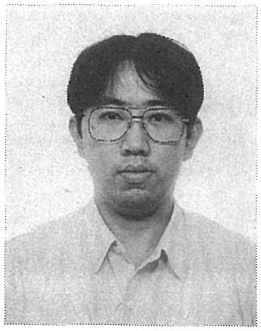
安田清和（やすだ きよかず）
大阪大学
工学部・助手

（自己紹介）

計算機との付き合いは，結構長く，中学の入学祝いに買ってもらったＴＫ－８０（ああ，なつかしい！）という国産初のシングルボードの8bitマイコンでした．当時は，１６進キーとＬＥＤといった原始的なヒューマンインターフェースでしたが，それでも寝食忘れてハンドアセンブルに熱中したものです．それに比べて現在の情報処理機器の進化には隔世の感があります．（当時は，あれでスタートレックのシミュレーションゲームをやっていたのですから．）ところで，大計センターには学生時代に数値計算のため，ほんの少しお世話になった程度ですが，UNIX歴は７年で，その間BSDとSystem Vの両方を手なづけてきました．現在，研究室ではおもにSunのワークステーションとPC互換機を日常業務や研究に使っています．プログラム言語はFortranとCを使うことがほとんどですが，それぞれ数値計算と機器制御とに使い分けています．また学科内では，情報処理教育担当教官として２年生のプログラミング演習もサポートしています．それにしても計算機というのは不思議なもので，いくら速いマシンでも，使っていいくうちにしだいに慣れてくるともっと処理が速くならないかと思えてきます．大計センターでもそのような利用者の飽くなき要望になんとか対処なさっているのでしょうか？この前の並列処理計算機のアンケートなどは特に興味を持って，replyさせていただきました．文部省に皆でもっとpushしましょう．話しがどうも外れてしまいました，今回初めての応募ですが，利用者の一助になれば幸いです．

March 16 1995

_/ _/ _/ _/ _/ _/_/ YASUDA, Kiyokazu (yasuda@mapse.eng.osaka-u.ac.jp)_/
_/_/ _/ _/_/ _/ _/ Dept. of Welding & Processing Eng., Osaka Univ. _/
_/ _/ _/ _/ _/ _/ Yamadaoka 2-1, Suita, Osaka 565 JAPAN _/
_/ _/ _/ _/ _/_/ Phone : +81-6-879-7551 FAX : +81-6-879-7570 _/



担当窓口：吹田
担当曜日：火曜日（15:00～17:00）

加藤芳樹（かとうよしき）
大阪大学
大学院工学研究科・Ｍ１

（自己紹介）

今年から１年間どういうわけか、吹田地区でプログラム相談員をさせて頂くことになってしまいました加藤です。工学部原子力工学科の第五講座というところに所属しております。現在、火曜日の３時から５時までの担当となっています。

私の研究室は原子炉物理というものを扱っていまして、原子炉内の様々な現象をコンピュータを使って解析しています。研究室は理論系なのですが実験もすこしやってまして、私は今年、大阪府熊取町にあります京都大学原子炉実験所というところで、臨界集合体（ＫＵＣＡ）を使ってＢＷＲ出力振動模擬実験というのをやる予定ですので、その実験データももちろんコンピュータで解析することになるでしょう。

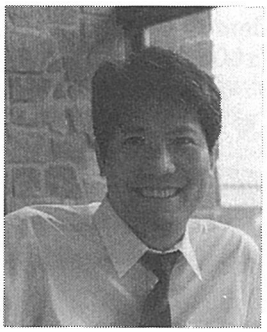
実は私はまだの大学院１年でありまして、キーボードに初めて指を触れてから実はまだ２年ほどしかたっていないという、およそプログラム相談員というに及ばない者であります。大型計算機センターの利用も、９８の端末ソフトＡＳＴＥＲを使って、ＡＣＯＳでＦＯＲＴＲＡＮを走らせるほどにしか使っていませんでした。いつもは研究室にあるワークステーションで仕事をしています。

ですから、相談に答えられそうな内容というのは、ＡＣＯＳの基本的なコマンド、ｕｎｉｘで通常一般的に使用する部分での内容、あまり難しくないＦＯＲＴＲＡＮといったところでしょうか？（はっきりいって守備範囲はせまいです。）　あとＰＣ－９８のことなら、色々とアドバイスしてあげられるかもしれません。ＰＣ－９８を買って、使い方がよくわからないという人はぜひ来てください。

また、わざわざ出かけていってまで相談するという質問でもない、という人や、遠くて行くのが面倒でやだ、という人は、ｑｕｅｓｔｉｏｎｓ@ｃｅｎｔｅｒにメイルを出して質問することもできますので、そちらを利用されるのもいいと思います。これはプログラム相談員全員が見ますので、こちらのほうがきちんと答えてもらえると思います。（いや、相談室に来ないで、ということではありません。）

まあとりあえず、何でも相談しにきてください。初心者の方は大歓迎です。わからないことは一緒にマニュアルを見ながらでも考えましょう（笑）。でも、あの相談員をいじめてやろうという、難解な質問をもってくる人はお断りです。というのはうそです。わからない時は、お答えできる人に引き継がれますのでご安心を。

私はただの電話交換手になるかもしれませんが、皆さまの御来室をお待ちしております。



担当窓口：吹田
担当曜日：水曜日（15:00〜17:00）

出口（でぐち）　弘（ひろし）
神戸女学院大学
人間科学部・助教授

（自己紹介）

今年の４月１日より神戸女学院大学人間科学部に赴任致しました出口です。ご存じかと思いますが、３月末まで大阪大学大型計算機センターの研究開発部に在籍しておりました。大阪大学在職中は公私ともに一方ならぬご厚情を賜わりましたことを心よりお礼申し上げます。今後とも一層のご指導ご鞭撻を賜わりますようお願い申し上げます。大計センターでは４年間お世話になりましたが、本年度からはプログラム相談員として関わらせて頂くことになりました。センターのことはよく知っているようで何も知らない新米のプログラム相談員ですが、これからもよろしくお願い致します。

さて私の相談担当領域ですが、在職中に引き続きまして、EXPLORER、AVS（超初心者状態です）等のビジュアリゼーション関係のソフトウェアと第２ＴＳＳ端末室、通称ＳＶ（Scientific Visualization）室のビデオ機器をはじめとするＳＶシステムとさせて頂きたいと思います。その他対応できる領域としては、プログラミング言語Ｃ、ＵＮＩＸワークステーション、MACINTOSH関係というところでしょうか。はたしてどれ程皆様のお役に立てますか、少々不安ではありますが、お手柔らかにお願い致します。

神戸女学院もこの度の阪神大震災で被災し、私の関係する情報処理センターならびに情報科学演習室の建物が倒壊致しまして、現在、仮設大学棟と称するプレハブの建物にいくつかの研究室と共に収容されております。新しく建設する予定の教育研究棟に期待している毎日です。女学院は情報科学演習室と言いましても、パーソナルコンピュータ（ＰＣ９８）を並べているだけで、未だネットワークにも接続もされておらず、かなり遅れているのが現状で、環境の落差に戸惑っておりますが、今後ORIONSに参加しキャンパスLANも構築できたらいいなあと思っております。ネットワークが接続できたらオンライン相談員にしてもらおうかな！？

段々くだけてきたというか地が出てきましたので、ボロが出ないうちに（もう出てるか！？）そろそろ自己紹介を終えたいと思います。最後に、外部から阪大の大計センターをサポートするお役に立てれば幸いです。皆様のご協力をよろしくお願い致します。

担当窓口：吹田
担当曜日：木曜日（10:00～12:00）

家本　修（いえもと　おさむ）　iemoto@ouemic.osaka-ue.ac.jp
x60606a@center.osaka-u.ac.jp
大阪経済大学
経営学部・助教授

（自己紹介）

ＳＰＳＳ／プロ相室へおいでください

木曜日の午前を担当しております。主として、ＳＰＳＳなどの相談に乗っています。

情報科学での専門が、認知科学と情報分析ということで、数量化と多変量解析の相談を持って来れられことが多いかと思います。最近は、ＭＡＩＬでの相談が増えてきました。ちょっとした簡単な相談は、ＭＡＩＬで、分析に踏み込んだ相談は来室と分けていらっしゃるようです。どちらの相談も大いに歓迎いたします。

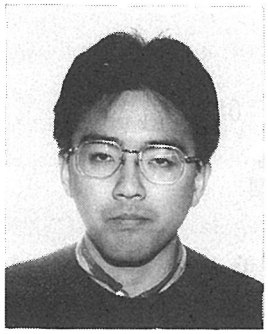
また、年に２回（夏前と冬前）ＳＰＳＳの講習会の講師をさせていただいております。基本的には、前が入門、後ろが応用なのですが、毎年割と前半をご希望になられる方が多いので、入門に近い形を繰り返していることが多くなっています。ご希望があれば、もう少し高度な使い方の講習会をして見たいと思っています。

現在、プログラム指導員も兼務しておりまして、こちらもＳＰＳＳの相談が多いようです。こちらは、本務校（大阪経済大学の私の研究室）で相談をお受けしております。割とバタバタしておりまして、なかなか捕まらないようですので、学外の方はほとんどＦＡＸでのご相談にさせていただいております（ＦＡＸ：０６－３２８－４９４８：大阪経済大学ＭＩＣ事務室）。ただ時間によっては、私の手元に来るのに講義の都合等で、２～３日遅れることがありますので、ご了承ください。

今日、マルチメディアとインターネットの時代になり、身の回りのコンピュータ環境が著しく整備され始めました。お陰で近い将来には、WWWサーバのホームページを研究室で持ち、ＳＰＳＳの相談コーナーを作ろうと思っています。そう言えば、センターもＣＧ環境が整備され、研究上も含め本格的にＯＮＹＣを触って行こうかと思っています。最近の相談にＰＣのＣＧ関係がパラパラあり、わかる範囲内で＜お話＞はさせていただいてはおりますが？？？です。中には、ＰＣのＳＰＳＳやＵＮＩＸ上でのＳＰＳＳの相談もありセンターにあったかなと思いながらも、なかなか面白いものです。もちろんユーザ同志ですから？、そう堅いことは言わずに判るところはお互いに教え合おうではありませんか。

現在、私の研究室での調査・実験方法に、ＣＧや映像（ＶＯＤ）を使った研究テーマが増えてきました。様々な映像合成や画像合成など、マルチメディアを使った実験素材作りに新しい展開を始めています。分析手法の発展と実験手法の展開は、ますます研究の幅を広げ、コンピュータの発達は、ますます研究のサイクルの短縮を押し進めるように思いますが、学生諸君ともども本質を忘れることなく突っ走って行きたいと思っています。

文末になりましたが、「相談は、相談したいときが相談時間」であることは、重々承知しております。なかなか捕まらないとか、週に１回とかおしゃらないで、遠慮なくＦＡＸやＭＡＩＬでお尋ねください。ただ繁忙期（１１月～２月）は、毎日かなりの数がありますので、回答を書かせていただく時間と本数は限られてしまいますので、この時期は、直接お出で頂く方が、安全かも知れません。遅れても、必ず回答させて頂くことにしておりますが、ひょとしたら回答を出来なかった方がいらっしゃるかも知れません。いらっしゃれば、この紙面をお借りしてお詫び申し上げます。懲りずにプロ相室にお出でください。



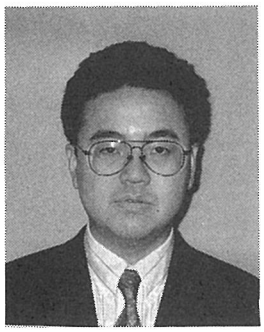
担当窓口：吹田
担当曜日：木曜日（15:00～17:00）

斎藤賢一（さいとう けんいち）
大阪大学
大学院工学研究科・D２

（自己紹介）

工学研究科機械工学専攻 D2 の齋藤です．機械工学，とくに材料力学分野においては，構造に使用する材料の複雑化・複雑化がすすんだことにより，微視的なモデル化に立脚したシミュレーションによる評価のニーズが高まっています．さらに，計算機の存在なくしてはありえなかった，分子動力学法やモンテカルロ法などの原子分子系のシミュレーションも，計算機による実験として位置づけられ，物理現象の解明のための有効な手段となっている事実があります．ですから，スーパーコンピュータをはじめとする高性能マシンの登場とその利用がこれからの新しい機械に用いる材料の研究と不可分になることが予測されます．そんなビジョンを持って大型計算機センターを利用しています．

これまで，研究室内と大型計算機センターの WS や SX などを4年間利用してきました．また，最近，計算結果の可視化システムの構築に取り組みつつあり，SX-View，IRIS-Explorer 等を，十分とはいえませんが，使い始めた状況です．自分自身も大型計算機センターの計算機利用をさらに学んでいかければならないくらいなのですが，できる範囲で，質問をされる方と一緒に考えていけたらと思っています．



担当窓口：吹田
担当曜日：金曜日（10:00～12:00）

小野正順（おのまさのぶ）
大阪大学
工学部・助手

（自己紹介）

現在，金曜日の午前中 (10 : 00-12 : 00) にプログラム相談をやっています、工学部土木工学科助手の小野正順です。大阪大学の助手になって本年で７年目になりますが、プログラム相談は本年度から始めたばかりの新人です。出身大学は愛媛大学ですが、その頃から大阪大学の大型計算機を大学間ネットワークで使用させて頂いた事を覚えています。専門分野は、学生の頃から海岸工学であります。現在までに阪大の大型計算機を用いて行ってきた研究は、海岸・海洋構造物を対象とした３次元物体まわりの波変形及びそれに作用する波力、あるいは浮体構造物の動揺量に関する数値計算、また海岸侵食に関わる漂砂移動現象のモデル化や砂漣上の流体運動のシミュレーションと浮遊砂の運動特性、航路埋没問題に関する埋没量の予測法とその低減工法の効果の予測などを行ってきました。現在においてもまだまだ未完成で開発途中のシミュレーションばかりです。計算は、研究費節約のためにSXでバッチ処理するのがほとんどです。しかし、最近では、DOS/Vマシーンでも大容量の計算ができるようになってきているので、急ぎの用意外はパソコンで４、５日占領して計算する事も多くなっています。それから、計算結果を図示することも、研究成果を整理する重要な手段ですから、グラフィック端末についてもよく使わせてもらっています。従って、この辺の事でしたら相談にのれると思います。

本年度は、水産工学に分野を広げて着定式魚礁まわりの流況のシミュレーション及びそれに作用する波力、洗掘形状の予測などの数値計算や、浅海域における生態系のシミュレーションを行いたいと考えています。夢は、計算機の中で色々な貝やエビやカニ、魚を育て、人間にとって都合の良いのではなく海洋生物にとって理想的な海を考え、そんな海岸や干潟を大阪を始め全国各地に作りたいと思っています。

担当窓口：吹田
担当曜日：金曜日（15:00～17:00）

横山賢治（よこやま けんじ）
大阪大学
大学院工学研究科・M1

（自己紹介）

吹田地区で今年から、プログラム相談員をすることになりました横山です。

担当時間は金曜日の午後3時から5時です。私は、大阪大学工学部原子力工学科のM1の学生で専門分野は原子炉物理です。超ウラン元素の原子炉における消滅処理ということを研究しています。超ウラン元素というのはウランよりも原子番号の大きい元素のことで天然には存在せず放射能をもっています。これらの元素は原子炉の使用済み燃料中に含まれいるいわゆる核廃棄物です。この核廃棄物を原子炉で効率良く消滅させるにはどうすればよいかといったことを、計算機でシミュレーションしています。

計算にはFORTRANを使っています。ということで、私の相談にお答えできる分野はFORTRANが主になります。計算機は、去年の末ごろから我々の研究室のワークステーションも充実してきていまして研究室のワークステーションを使うことが多く、センターの相談員としては頼りないかもしれませんが、ワークステーションに関しても多少お答えできると思います。その他としましては、端末にMacintoshを使っていますので、NCSA　Telnet、Eudra、Fetchなどのアプリケーションに関することも基本的なことに関してなら相談にのれるかと思います。最初にも書きましたように、今年初めてプログラム相談員となりましたので相談可能な分野も狭く、私自身がすべての相談にお答えするということは出来ないと思いますが、わからない分野に関してもできる限りの手を尽くしてお答えしようと思います。気軽に相談に来てください。

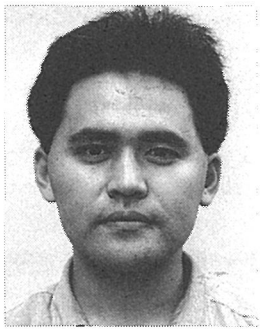
担当窓口：豊中
担当曜日：月曜日（10:00～12:00）

湯川　諭（ゆかわ　さとし）
大阪大学
大学院理学研究科・Ｍ１

（自己紹介）

１９９４年度の後期からプログラム相談員をしています湯川諭といいます。現在、阪大理学部の大学院で物理学を専攻しており、物性理論、特に統計力学の分野で研究を行なっています。現在は、交通流に存在している非線形現象を対象にして非線形動力学模型をつくり大型計算機センターのsx3や別の研究所のスーパーコンピューター、またワークステーションを使ってシミュレーションしています。

計算機にはじめて触ったのが学部学生のときで、その時は情報処理センターのNeXTで遊んでいました。（よく考えるとほんの三年前！）このように計算機歴は浅いのですが、研究室に入った時にネットワークにつながっていず遊んでいたNeXTをネットワークにつないでしまった縁から、現在は研究室のNeXT 4台とHewlett Packard 4台の面倒を見るはめになっています。面倒を見ているうちに必要にせまられ覚えたunixですので知識が偏っていますが、もし何かわからないことがありましたら気軽に質問して下さい。できる範囲でしかお答えできませんが、お役に立ちたいと思っていますのでよろしくお願いします。



担当窓口：豊中
担当曜日：火曜日（13:00～15:00）

山下（やました）　満（みちる）
大阪大学
大学院理学研究科・Ｄ２

（自己紹介）

はじめまして、毎週火曜日の午後１時から３時まで、プログラム相談を担当しております山下と申します。　プログラム相談員としてはまだまだ力不足ではありますが、よろしくお願い致します。

私は現在（これから??）ＫＫＲなどの手法を用いて、主に固体中の電子状態計算（バンド計算）を行っております。一昨年までは、カオスニューラルネットワークモデルを利用して、イジングスピングラス系のエネルギー最適化を行っていましたが、プログラムのデバッグはPC上で行っていたために、大型計算機センターはあまり利用しておりませんでした。

私のように理論系の研究室に所属していると、一見、ソフトウェアーに強いと思われがちですが、実を申しますと、プログラムのようなソフトウェアーを扱うよりも、むしろコンピューターや電機（電子）製品などのハードウェアーを扱うほうが、どちらかというと得意です。以前はよく近所の電気屋さんでパーツを買ってきて実験用の安定化電源や受信ブースターなどを作ったものでしたが、最近は暇がなくなったのと、既製品を買った方が安価で高性能なものが手に入るようになったことなどが原因で、自分でモノを作ることはあまりなくなっています。！

プログラム相談に関係のあるソフトウェアーの面では、ごく最近までMS-DOSを使っていたこともあり、よく利用していたDOS上のソフト（ Filmtn ,GP , ECOM , etc. ）やTeX 、FORTRAN に関してはある程度、実用に耐えるくらいの知識を持っていると思いますが、UNIXに関してはほとんど初心者同然です。

そんな訳で、質問を受けながら、こちらも少しづつ勉強して行こうと考えております。

それでは、どうぞおてやわらかに、よろしくお願い致します。

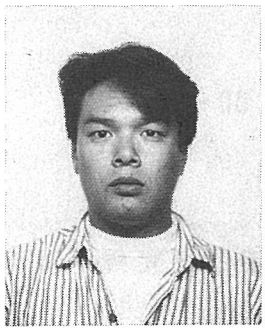
担当窓口：豊中
担当曜日：金曜日（10:00～12:00）

浜　重一郎（はま　じゅういちろう）
大阪大学
基礎工学部・助手

（自己紹介）

以前吹田センターにてプログラム相談員をしたことがありますが今年度からまた豊中ＤＳにて相談員をさせていただくことになりました。前回は比較的多くの質問があってそれに対応するために調べたことが後々色々と役にたったことを思い出して浅学も省みずもう一度相談員をしてみようと思った次第です。今回は、センターのサービス内容も多様化してきてなかなかおっつかなくなって来ている現状なので、この際相談員をするということを口実にして（すみません）もう一度勉強をしてみようと思っています。ユーザーとしての立場から言えば、忙しいとは思いますが、センターのサービスの分かり易い使用方法あるいは関連するセンター・ニュース、速報をまとめてファイルに納めて変更ごとに追加、更新するようにしていただければ随分助かるのではないかと思っています。見たところ使用方法に関する系統だった情報が比較的少ないように思います。

一応数値計算屋の看板を掲げておりますが、しかし最近の大型計算機の高速化、大容量化は大変有り難い一方それに伴って要求される計算内容はより複雑、詳細かつ厳密になってきて以前に比べて数段条件は厳しくなってきているので少々閉口しているのが現状です。少なくとも一つの（小さな）テーマにかかる計算料にしても以前に比べて増えこそすれ減ることはないようです。少々古びた言葉ですが、量的変化を媒介として質的変化が起こるということは数値計算におけることでもあったのです。具体的には電子論に基づいた高密度固体の物性の研究をしています。理論高圧物理屋と自称しております。この分野は最近また面白くなってきていますが、私にとっては日暮れて道は険しいの感です。



担当窓口：豊中
担当曜日：金曜日（13:00〜15:00）

松本浩一（まつもと こういち）
大阪大学
大学院基礎工学研究科・M2

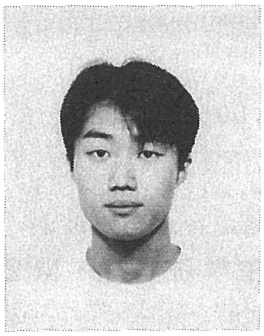
（自己紹介）

今年でプログラム相談員2年目になります松本です。今年は、金曜日の13時から15時の担当となりました。場所は、昨年と同様に豊中データステーションです。

現在は、基礎工学部機械工学科の吉川研究室のM2です。私の行っている研究は、開口端から放射される音波に開口端形状がどのように影響を及ぼすかについて調べるというもので、数値計算を用いて行っております。計算は、研究室内のワークステーションを用いていますが、ACOSやSXも用いております。用いているプログラムはFORTRANばかりですので、相談にのれる内容もFORTRANが主となりますが、その他のことも聞いてくだされば なんとか答えられると自分では思っています。

先に書いたように、私は2年目ですが、昨年私がこのプログラム相談員としてした仕事は、あまり言いたくはないのですが、全くありませんでした。つまり、2時間のあいだ一人きりでデータステーションの相談室にいるということばかりでした。確かに、冷暖房が完備され快適な状態で自分の研究に精を出せるのはいいのですが、やはり一人きりというのはとても寂しい。ですから、この記事を読んだ人は、いつでも気軽に相談に来て下さい。できる限り皆様の力になれるように頑張りたいと思います(実際はどうなるかわかりませんが)。また、この記事を読んだ人は、プログラム相談員の存在を知らない人や相談室を知らない人に教えてあげて下さい。

では、いつの日かプログラム相談室で会いましょう。



担当窓口：豊中
担当曜日：金曜日（15:00～17:00）

高木一樹（たかぎ かずしげ）
大阪大学
大学院基礎工学研究科・Ｍ１

（自己紹介）

今年５月より、毎週金曜日の午後３時から午後５時まで豊中データステーションでプログラム相談員をすることになった、Ｍ１の高木といいます。はじめての事なので、相談される方、センターの方、両方に何かと御迷惑をおかけすることと思いますが、一生懸命やらせていただきますので、よろしくお願いいたします。

研究の方は、昨年までは、宇宙機の惑星間の最適軌道計算を行っていたのですが、今年より新たに、宇宙船周辺のプラズマの数値シュミレーションをやっています。具体的には、粒子各々に対して運動方程式・マクスウェル方程式をたて、中心差分ににによりひたすら解いていくというものです。言語としてはＦＯＲＴＲＡＮ、またＳＸの利用を考えています。これらに関しては、研究室にプログラム相談員の先輩もおられるので、ある程度は相談にのれるようになると思います。また、研究室内ではワークステーション等の管理をやる羽目になっておりますので、これらについてもある程度の相談にはのれるかと思います。相談員とは関係ないですが、研究室では最近 PC-UNIX に手を付けたりして、PC98 でも X 端末っぽく使ったりもしてます。

最後に、他のプログラム相談員の方々のように、「もっとどしどしプログラム相談室を利用して下さい。」等というようないえませんが、気軽に声を掛けて下さい。僕の属する吉川研究室では、伝統的にプログラム相談員がおられるようなので、先輩の方々同様に、がんばらせていただきます。それでは、プログラム相談室で会いましょう。